

牟岐町の  
5つの課題解決を

牟岐町の抱える課題に役場の移転、海部病院移転後の現施設の活用がある。また、海部郡共通課題としてゴミ焼却施設の改築がある。全国共通課題としては南海トラフ地震をはじめとした災害対策と、市町村が消滅しないための地方創生がある。現在、この5つの課題を解決することが、将来牟岐町が存続するために必要なことであり、牟岐町の財政力からすれば、この5つの課題はそれぞれ個々に解決が図れるのではなく、関連させ効率的・集約的に取り組まなければ解決できない。

人口減少が急速に進行し店舗が次々と閉鎖していくなか、牟岐町から一人でもまた一つの事業所も無くないようにと取り組み、全ての課題を地方創生と関連づけ、交流人口が増え雇

用が増えるように進めてきた。

海部病院は災害拠点病院として無くてはならないもので、町活性化のためにも重要な施設である。病院が無くなれば急速に過疎化が進み、大きなダメージを受ける店が数多くある。また現在の海部病院は、移転後も牟岐町活性化のために空き家にしてはならないと考える。民間利用が最善の策で、利用者が見つからない場合、牟岐町の創生のためには町が主導的役割を果たすべきである。

また、ゴミ処理施設も現在、迷惑施設と言われているが、その迷惑な原因を現在の技術力をもって解決し、排熱を利用した温泉や温水プールや温室など地域の方々が利用したくなる施設にし。新しい雇用の場を創出する。また、災害時に多くの人命を守ることでできる避難所などの災害拠点施設にする。あるいは海水を利用した温泉浴など健康療法を行い町外からの誘客を図るなど、少しでも牟岐町へ

の交流人口を増やし、消費を促進する方法を模索すべきである。

ゴミ焼却施設は空気環境を害する迷惑施設と言われるが、これまで公害問題を引き起こしてきたのは工場であり、ゴミ焼却施設が周辺地域の人々に被害を与えたという事例はないと認識しており、ゴミ焼却施設の周辺地域の方々の寿命が短いという話も耳にしない。現在の日本の焼却炉の大部分が、牟岐町に設置されているのと同じストーカ炉と呼ばれる燃焼方式で、日本人の寿命は世界一であり、この焼却炉が健康に害を与えているとのデータはないと思う。しかも、平成15年以降ゴミ焼却施設の性能は格段に向上しており、最新の阿南市の焼却炉を牟岐町のモノと比べると、排煙の性能が300倍近く良くなっている。つまり、新型の焼却炉から30年間に出来るダイオキシン等の量と、現在の牟岐町の焼却炉から1、2か月間に出る量が同じということになる。したがっ

て現在稼働中の牟岐町の焼却炉から出るダイオキシン等の量を最小にするには、1日でも早く新型炉に改築することが最善の策だと思われる。他の場所でも改築すれば、環境影響調査等で少なくとも現在地での改築より3年は長くかかるし、用地選定・造成作業も含めれば、5年は長くかかると予想している。またゴミ焼却施設や、し尿処理施設の従業員は、し尿やゴミを毎日懸命に迷惑施設と言われないうようにできるだけ無害にと処理をしている。彼らが自身の狭い思いをしなくても済むよう、迷惑な事象があるなら、みんなで改善していくのが建設的な考えだ。

牟岐町、また海部郡にとり、牟岐町で改築すべき理由が他にも幾つかある。他町で開発造成する場合、財政力の乏しい牟岐町にとり負担が非常に大きくなること。牟岐町で改築した場合これまでより財政的負担が小さくなること。南海トラフ地震の二次避難所の不足が予想されるなか常時使える安全な避難所ができるだけ多く必要なこと。運送費が他町にとり公平になるなど、牟岐町が海部郡の中心町であるという責務を果たせること。そして、最も重要な事は、現在37年が経過し部品在庫も無い機器が増えており、いつ焼却炉が使用不能となるか分からない状態にあり、一日も早い改築が必要であること。また、近い将来、南海地震の発生が予想され、災害対策を進めるなか、ガレキを含めたゴミ処理を全て町外に委託する計画では、自治体の主体性が問われる。

今後のゴミ焼却施設の改築の進め方としては、多くの町民から他町で改築すべきであるとの意見があり、他町で代替え地の選定を早急に検討してもらおうとともに、早急に改築しなければならぬ理由と、牟岐町で改築するメリットが数多くあることから、私は、牟岐町で現在地での改築の他に、他の地域での改築も視野に入れ協議を進めたい。